交叉点 24

明高２４回生通信

28th/Feb. / 2022

私のこの２年間

３－５　山本昌子

2020 年および 2021 年は『コロナ禍』という世界的厄災が渦巻いた二年間でした。一方で、私にとっては禍いだけでなく、たぐい稀なる幸運がもたらされた二年間でもありました。

まず、2020 年の年明けは例年通り、平穏にはじまりました。

わたしたちは、2 月の初旬、アンコールワット観光旅行を計画していました。武漢で謎の肺炎が流行っているとか、ダイヤモンドプリンセス号の船内感染のニュースは耳に入っていましたが、事態を軽視し、敢行したのです。

この無謀な仲間は 24 回生のブラバン仲間、ＫＮとＹＳです。このメンバーは四十数年前、華やかなりし独身時代、沖縄旅行をした間柄です。あのころは友達づきあいが一番楽しかったものです。けれども、その後、結婚によってそれぞれが家庭をもつようになると、家族が第一になってしまいました。とはいえ、子供たちが親離れするのと反比例して、細々とつながっていた友達とのつきあいが復活してきました。そうなると旅行は、つい、わがままを言ってしまう家族よりも、人生のあらすじを熟知していて、ある程度、距離の保てる友人と行くほうが楽しいに決まっています。

そんなわけで、わたしたちがトゥクトゥクに乗ったり、フォーを味わったり、石段の塔を登ったり、カンボジアでの楽しい数日間を過ごして帰ってくると、まだ、プリンセス号の感染騒ぎは収まってなかったのです。数日後には海外渡航者への締め付けがきつくなりはじめ、間一髪、ラッキーな海外旅行となったというわけです。

楽しい思い出に浸っていた春ごろ、事務局より連絡があり、わたしがシナリオＳ1グランプリの奨励賞に選ばれたというのです。６年前にシナリオセンター大阪校に入学し、シナリオの勉強をしていましたが、やっとわたしのシナリオが人に認められた最初のできごとでした。

文章の世界に入ったのは 16 年前です。52 歳で子供の手も離れたころ、ある日、一日中、ゲーム（四川省）をやっている自分に気づき、愕然としました。老後の趣味をもたなければならないと痛切に感じ、いろいろ探したあげく、カルチャーセンターの文章教室に通い始めたのです。そこで自分のプライバシーをさらけるエッセイよりも、架空のお話をつむぐ小説のほうが性に合うとわかり、小説を書き始めました。

この文章教室では文学のソフト面、比喩などについて学んだあと、四枚小説の講座に移り、文章のハード面、構成や無駄の省き方、展開の仕方などを学びました。その後、ドラマ手法を身につけたくてシナリオセンターに入学し、主人公のキャラクターの造形のしかた、いかに枷をかけるか、葛藤を抱えさせるかを学んだのです。

その結果、Ｓ1で賞をいただいたわけですが、やっと今までやってきたことが方向違いではなかったと確信をもてました。そして脚本賞の応

募をつづけたのです。
　ついに秋、NHK大阪放送局から連絡がありました。
『摩耶ぎつね』がBKラジオドラマ脚本賞の最優秀賞に選ばれたのです。ラジオドラマに関しては、NHK各放送局で募集をしていますが、当初から大阪局に狙いを定めて 6 年間、毎年応募していたのです。授賞式がすむなりFM放送のオンエアに向けて、台本手直し作業が二か月にわたり、ここでプロの仕事の厳しさを知ったというわけです。私の脚本は単なる叩き台に過ぎず、番組というものは、プロデューサーやディレクターなどスタッフ、役者さんたちによって作り上げられていくものだと知りました。
　翌年、2021 年春にはS1の準グランプリに選ばれました。これは私たち世代が憧れた団塊の世代を描いた 2 時間映画サイズの映像ドラマです。舞台はジェームス山、主人公は老弁護士で、かつて全共闘運動をともに闘った恋人と 50 年ぶりに再会するというドラマです。あんなに志をもって気高く生きていた彼女が今は後妻業？　といった内容です。
　また、秋には小説のほうで小さな賞もいただきました。
　とはいえ、次々応募して、やっと得られたこれらの賞、この二年間に限れば、賞獲得率は2割というところでしょうか。以前の 14 年間はゼロ割だったわけですから、奇跡のような状態です。このまま幸運がつづき、自分の脚本が映像化される日を夢見て、日々、PCの前で構想を練っております。
家族ともども健康であれば、この六十代から七十代にかけて、やりたいことに専念できる、人生で最も自由な時間をもつことができるありがたい期間だと思って享受しています。
　同窓会は延び延びになっていますが、2022年も危うい空気が漂っていて心配は尽きません。アンコールワット旅行の反省会ですら、ままならず、メンバーとの再会も果たせておりません。高齢者の私たちが出歩く機会が減ってしまったまま出不精になって家にひきこもってしまうことがないよう、気を引き締めてコロナ禍後の新しい世の中へ踏み出して行きましょう。
　いずれ、また、元気なみんなと会えるのを楽しみにしています。

I will be a farmer and a gardener.

３－５　濱口義信

元３年５組、野球部卒業生の濱口です。河合さんがお世話して下さっている line group の記事や側聞する消息よると、この年齢になると現役で変わらず働いている方から完全リタイアして趣味やボランティア活動に邁進している人まで本当に様々なパターンで同期生の皆さんが過ごしておられることに驚かされています。

　私は 2019 年 3 月末で 34 年間勤めた同志社女子大学を定年退職しました。最近ほとんどの同僚は 70 歳まで再雇用？で働くのですが、それ以前の筑波大学（準研究員）、四国学院大学（香川県）を含めて 40 年大学で勤めたのですから自分的にはもう十分だろうと思っています。現在は現役時代からの続きで非常勤講師として後期に週一コマだけ兵庫大学で中高の教員免許取得希望の学生のための「体育原論」という授業を担当しています。
　退職してからもうすぐ 3 年が過ぎます。退職したら妻と毎月旅行をしようと話していたのですが、現実にはそうはいきませんでした。まず研究室から持ち帰った荷物（段ボール 40 箱ほど、それでもその数倍は処分したのですが）の置き場所と自分の居場所を確保するために、

古家の片付けをしている内に半年が過ぎました。そして退職後依頼された職場での最後のご奉公（講演会）も年末に済ませ、さあこれからと思っていた矢先コロナで動きが取れなくなってしまいました。その結果 2020 年 2 月中旬に卒業生の誘いで三宮にステーキを食べに行って以来一度も電車に乗らないで今日を迎えています。長年 100 ㎞離れた職場まで片道2時間余りかけて電車で通ってきた生活とは大きな違いです。

今は、週一回キリスト教の教会と中村クリニックに通い、たまに近くのスーパーに出かける以外は家か裏の畑の周辺で過ごしています。

ほとんど出かけないですが退屈な日々を過ごしているわけではありません。むしろこれまで以上に季節の変化を十分に感じながら日々を過ごしています。

我が家の庭や畑では多くのものが私の食欲を満たしてくれます。思いつくままに季節順に並べてみると、自然薯、フキノトウ、ツクシ、サクランボ、フキ、梅、プラム、グミ、アスパラガス、枇杷、ミョウガ、青じそ、イチジク、栗、柿、銀杏、キウイ、キンカン、それに冬以外は季節にとらわれず伸びてくるニラとペパーミントを含めて、新しいものでも 35 年以上成長した野生化した成長力をなだめすかしながら楽しませてもらっています。

退職してから荒地になっていた裏の畑の草刈りをしていましたがそれだけではもったいないので少し耕して簡単に畑を始めました。まずはスイカ、南瓜、トマト、ナスから始めて昨年はサラダ菜と人参、大根がこれに加わりました。これから畑を少しずつ整備して栽培の種類も増やしていく予定です。

食べるものだけでなく、木や花もいろいろあります。

松、梅、桃、銀杏、ウバメガシ、モチ、槇、金木犀、椿、獅子頭、山椒、サルスベリ、大手毬、夾竹桃、山吹、水仙、バラ、アジサイ、ダリア、ひまわり、菊、その他名前がわからないものもいろいろあります。私が植えたものはほとんどありませんが、試行錯誤しながら枝の剪定や摘果と草取り、虫取りなどをして庭が荒れないようにするだけで結構忙しい日を過ごしています。

退職する際たくさんの人から退職後どうするのかを聞かれ、初めの頃は I will be a farmer と、後には I will be a gardener の方がかっこよさそうに思えてそう答えてきました。どちらが正しいのかはよくわかりませんが、コロナがあろうと全く関係なく、私の都合への配慮も一切なく営々と続く自然の確固たる歩みに感動を覚えながらそれらに追われる毎日です。そんな生活の中で、結局人間も自然のちっぽけな一部に過ぎないことを実感すると同時に、気候変動や人間が自然に与え続けている過大な負荷を身近な現実として意識するようになってきました。

これからも肥料や農薬などを使わずに、でも野放図な自然の営みを少しコントロールしながらおいしい実や美しい花を楽しませてもらうために木や花との対話を充実させていきたいと願っています。

お元気ですか

３－１０　高田和昭

同窓生の皆さん、こんにちは。

明石を離れて５０年、今回、伝統ある交叉点２４に寄稿させていただく機会を頂き、文才のない私がと、少々戸惑っておりますが、お声掛けくださいました河合さんに心より御礼申し上げたいと

思います。

　私は淡路島出身で、3年間下宿生活をしておりました。1年6組、2年5組、3年10組のクラスメートの方々、体操部所属でしたがその同僚の方々、さらに淡路の同じ中学出身の方々には色々とお世話になったと思います。本当に有難う御座いました。

さて、明高時代の想い出は少ないのですが、その一つに3年生のバレーボール大会があります。
おそらく、全校のクラス対抗だったと思います。
優勝したのです。9人制バレーボールで中衛のセンターであったと思います。下宿の庭先で同じ下宿人のバレー部の H さんにレシーブの特訓(?) を受けたのが心に残っています。(H さん有難うございました。) 楽しい想い出の一つです。
今思えば、メンバーの皆さん、クラスの応援してくださった皆さんには、“ありがとう”の感謝しかありません。 やはり、目標を定め、そして全員が心を一つにして頑張ったときの歓喜の勝利は格別なものであり、記憶に残っています。

　それと、今一つ申し上げたいのは、諸先生方の生徒を思う、熱いご指導には感謝の思いで一杯です。心より御礼申し上げたいと思っております。有難う御座いました。

その中の一つで、進路に関連する事がありました。
これから時代は「生物関連、バイオだよ！」 と。
物理の授業で O 先生の発する熱い声に感じ入り、{ 理系→工学部→生物系 }の流れで大学から就職までをイメージし、これでいこうと決めたように思います。 50年前の先を見据えたこのお言葉が、この時の私の決断が、就職してから今までの生活を支え、人生大半の期間の自分自身との戦いの場を決めたと言っても過言では無く、自分に合った職業を選ぶ事が出来たと感謝しております。

　1978年、バイオ関連の企業(本社、東京)に技術系として就職しました。最初の職場は神奈川県藤沢市、そうです湘南地方です。この会社には36年間在籍しお世話になりました。 その間、研究部門、製造部門、事業部、と移り変わり、職場も九州(八代市)、静岡(磐田市)、東京、中国(内モンゴル自治区への長期出張)等々。
幅広く仕事をさせて頂いた。
いろいろな職場で、多くの方々との出会いがあり、勉強させて頂いた。
ただ振り返ってみると、単身赴任生活が10数年の長きであったこと、それに伴い新しい職場、仕事への対応、上司、同僚、後輩との人付き合い等々において、悩み、行き詰まり、ストレス、落ち込み等で精神的にまいった時期がありました。 さらに家庭内では離婚という辛い、悲しい出来事もありました。

このような時に、打開が見えない時に、“妙法”に巡り合いました。それが自身に目が覚めるようなインパクトをあたえ、自身の壁を乗り越える精神的な柱になったと思います。現妻、そして

教え導いて下さった方々には感謝以外の言葉が見当たりません。
悩みの根源は自分自身であり、周りでなく、自分に因があると捉え、強い気持ちを持って、諦めずに前向きに力強く生きようと。
そして縁する人を大切に、常に“ありがとう”の感謝の気持ち忘れずに生きよう、と決定するに至ったと思います。
そのことが、60歳から全く業種が異なる企業に再就職し、新入社員となり、フルタイムで仕事を継続できている原動力にもなっていると思います。

　さて、現在「人生100年時代」と言われており、リタイヤからの時間が長くなり、そこをどのように過ごすか、どう元気に生きるか、が問われていると思います。
ある識者は述べています。それは「引退しないこと」ではないだろうかと。
人との絆、つながりを大切にし、対話をし、そして意欲や好奇心を失わず、「次にやること」を持ち続けることではないかと。

昨年、失礼を顧みず、卒業してから50年ぶりに同窓生のご自宅をお訪ねして、お会いし、色々とお話しさせていただいた。
やはり、同窓の縁というものは感慨深いものがあり、大切にしていきたいと思っております。

今、現役で仕事を続けていますが、古希を過ぎても頑張ることを目標にしています。
そして、絆、縁を大切にして沢山の友人と会って、対話出来ればと思っております。

明高同窓生の皆様、これからも何卒宜しくお願い致します。

　それでは、次回の同窓会で元気に多くの方とお会い出来るのを楽しみにしつつ。
皆様のご健康とご長寿を心より祈りつつ。
2022年1月吉日

玉ねぎ農家

３－９　田邊秋比古

前略、24回生の皆さんご無沙汰しています。お元気ですか?
と言っても皆さんにとって私の記憶はほとんどないと思いますが、大蔵中学卒で 3 年 9 組に在籍していた田辺です。最近の写真を付けているので見たら思いだすかも。 さてさて、いまこの原稿を11月にかいていますが、この月で６８歳になります。 卒業して早５０年が経ちましたね。残念ながら鬼籍に入られた方もおられるようです　力,、他の皆さんは定年退職して孫でも云々というところでしょうか。

かくいう私もと言いたいところですが、幸か不幸かいまだ現役でそれもお百姓として 働いています。
お百姓と言っても法人組織ですからお百姓というより、サラーリーマンのほうが正し いかもしれませんね。
畑?職場?は南あわじ市ですが、昔の三原郡緑町の方が分かりやすいかも。そして作 っているものは?そうです淡路と言えば玉葱ギです。
話は少し逸れますが、生産量は佐賀県に抜かれて第 3 位になりましたが、淡路の玉葱 はなかなかのブランドで早生は甘くて柔らかくておいしいと評判です。その理由は以 前ブラタモリで放送していました古代の地形、つまり淡路の南部は古代において河口 の扇状地で水はけが良いということと、それと戦前にネスレが淡路の地元の練乳メー カ藤井練乳と提携し、牛乳を供給するためこの地域で牛を飼う農家が増え、その結 果…・牛糞が多量に発生し、それを畑に撒くことにより玉葱に適した肥沃な畑が 出来上がったということで、牛携が玉葱を育てたともいえるかもしれません(間違えていたらごめんなさい).。
.今でも元肥として牛糞を使用していますよ。ちなみに肉牛 は黒、乳牛は白と地元では言います。
話は戻って、皆さんは定年後に農業なんて、まさに「人生の楽園」を編歌していると 思われるかもしれませんが、実際はそうはうまくいきません。貸してくれる畑はほぼ 耕作放棄地のため畑作りの前に土地の整備から始めないといけません。なぜなら、ほ ぼ全員の土地の貸主は 7 0 代以上で息子等の跡継ぎがいないとか、いても農業はやる 気がないとのことで畑を続けたくてもできないようになってしまっています。長い場 合だと 1〇年以上放棄された畑もあります。それを耕して畑とするには、若い人にとって 3K そのもの、確かに機械化されたとは言え鍬仕事は残りますし、20 kgもの 噴霧器を背負い足場の悪い泥田を歩くのは体にこたえます、その上、自然相手で玉葱 という生き物を扱いますから先が読めないということもあるのでしょう。カ、くいう私 も、最初の年に「百姓に土日も祝日もないだ!」と言われたり、今年もやっと植えた 玉葱の苗を鹿に食べられたり、せっかく育った玉葱畑の中でイノシシがダニをとるた めに玉葱やまた稲も植えたのですが背中をこすりつけられ 2 反の畑が収穫ゼロとなりひどい目にあいました。それだけしんどい職業なのでしょうね。
でも、いいところもあるのですよ。
それは、自然を充感で感じられるということです。
今の場所は地元では風の通り道といわれ常に風が吹いているような所ですが、そのせ いか、その空が季節ごとにいろいろな顔を見せてくれます。特に今の時期は農作業の 合間にふっと見上げると空がまるで宇宙が直接見えているかのように空が抜けるよう に綺麗で、何か自分自身が光の筋となりその空の中に吸い込まれるような錯覚さえ覚えます。また、畑を耕しているとトラクターのそばに虫を探しにいろいろな鳥が集ま ってきます。昨日はアオサギがすぐそばまで来てじっとこちらを見つめるものだから 思わず話しかけてしまいました「何してるん」と。…・やっぱ楽園ですかね。
ということで、今は、農業という 18 歳の時には思ってもみなかった経験をさせてもら っています。いくつになっても新しい経験は新鮮です。
あとどれだけの時間が残されているのかわかりません力:、健康な身体を頂いたことを 感謝し、これから何をしょうかな?どんなことを経験しょうかな?って日々思いを巡 らしています。
中村守さん日く
快食、快眠そして快便であれば人は幸せだそうです。

皆さんも健康で幸せな日々が送れればいいですね。
追伸
それと以下の HP へアクセスしてもらえれば私たちが作った玉葱が買えますよ。©
https://ikutama-mi.com
草々

事務局からのご連絡

・24回生関係のページをまとめました。
「明石高校24回生のポータル」
http://mokuzi24.dokikai.net/
「明石高校24回生のポータル」

・同様の主旨でLINEのトークルームを作りました。
・招待が必要です。河合　嘉のLINE友達になっていただくと「招待状」をお送りします。

河合　嘉

・住所不明者についてのお願い

1組　菊川忠男　岸本一朗　坂本隆彦　八木義孝　泉谷恵子　松尾洋子
2組　安藤悦郎　竹村郁子　長谷香代子
3組　北田雅福　高見訓司　土島日出彦　増子　隆　藤永みどり　秋定和子　平野由美子　鈴木佳子
4組　奥野好隆　田村政一　仲井　透　内田志津子　大泉尚子　尾坂尚子　山口哉子
5組　大村直樹　橋本成弘　長谷川俊広　山本和彦　魚住篤子　坂本嘉代子中川ゆかり　平山登志子
6組　近石　弘　西馬慎三　米谷嘉子
7組　塚原英成　辻　敏明　足立真知子　植田さち　近藤恵子　坂本京子　佐藤美智子　富岡るみ　森江真岐子　盛井雅子
8組　藤本雅之　諸岡宗司　山崎清孝　庄司真弓　加藤佐智代　田中英子
9組　浅田勝彦　魚住一裕　魚谷雅弘　加藤和宏
10組　青木賢一　木下孝一　黒田幸雄　西森正二　久山哲広　安尾弘文

2021 年1月現在（敬称略）

心当たりの方がおられましたら、下記連絡先までご連絡くださると助かります。

《連絡先》
事務局　河合昭彦
〒674－0051
明石市大久保町大窪
1000－1
Tel　090－8659－5628
Fax　078－934－1667
メール　m24@dokikai.net